

PROFILE



千田 嘉博(名古屋市立大学高等教育院教授/奈良大学特別教授)

1963年愛知県生まれ。奈良大学文学部文化財学科卒業。名古屋市見晴台考古資料館学芸員、国立歴史民俗博物館考古研究部助教授、奈良大学文学部文化財学科准教授、教授などを経て、2023年9月より現職。博士(文学)。城郭考古学専攻。
『織豊系城郭の形成』(東京大学出版会)、『信長の城』(岩波新書)、『城郭考古学の冒険』(幻冬舎新書)、『歴史を読み解く城歩き』(朝日新書)、『城館調査ハンドブック』(新人物往来社、共著)ほか著書多数。
北川 央・千田嘉博著、鮎川哲也編集協力『豊臣の城—秀吉・秀長・秀次・秀頼 豊臣家の誕生から終焉まで—』(朝日新書)近刊予定。



桜花 昇ぼる(OSK日本歌劇団元トップスター/九度山町文化・観光大使)

大阪の春の風物詩「春のおどり」をはじめ、大阪松竹座、京都南座、東京・日生劇場、新橋演舞場、帝国ホテルのクリスマスディナーショーなどで主演。愛知万博(愛・地球博)、上海万博、ミラノ万博、大阪・関西万博などにも出演。日本舞踊名取「花柳寛おう昇」、四代目旭堂南陵門下の講師「旭堂南桜」の芸名も持つ。真田幸村役をライフワークとし、日本全国ゆかりの地で19年間演じ続けている。九度山町主催のイベントにも多数出演し、2023年からは九度山町文化・観光大使として観光振興等に貢献。



玉田 玉秀齋(講談師)

玉田家は幕末、京都を拠点に全国で活躍した神道講釈師・玉田永教の流れをくみ、三代目玉秀齋は『猿飛佐助』『真田十勇士』『菅原天神記』『安倍晴明伝』などを世に広め、明治大正期の若者に大きな影響を与えた。四代目玉秀齋はロータリー交換留学生としてスウェーデンに留学中、逆に日本に興味を持ち講談師に。英語講談や音楽コラボ講談、観光講談、ビッグイシュー講談など新作講談を多数公演。更に文楽や吉本新喜劇、地域の伝統芸能とのコラボ公演も多い。京都講談復興のため、京都劇場で定期公演中。2024年3月三重大学大学院修士課程「忍者・忍術学コース」修了。NHK朝ドラ『ばけげん』怪談ばなし指導(2025/10~放送中)。FM大阪『天才的なバカになれ!』毎週日曜放送中。



北川 央(九度山・真田ミュージアム名誉館長/大阪城天守閣元館長)

1961年大阪府生まれ。神戸大学大学院文学研究科修了。1987年大阪城天守閣学芸員となり、主任学芸員・研究主幹などを経て、2014年~2022年大阪城天守閣館長。2018年より九度山・真田ミュージアム名誉館長。織豊期政治史・近世庶民信仰史・大阪地域史専攻。
『大坂城 秀吉から現代まで 50の秘話』(新潮新書)、『大坂城をめぐる人々—その事跡と生涯』(創元社)、『豊田家の人びと—栄光と悲哀の一族』(三弥井書店)、『大坂城と大坂の陣—その史実・伝承』(新風書房)、『なにわの事もゆめの又ゆめ—大坂城・豊田秀吉・大坂の陣・真田幸村—』(関西大学出版部)ほか著書多数。

九度山・真田ミュージアム KUDOYAMA・SANADA MUSEUM



和歌山県九度山町ゆかりの戦国武将である真田昌幸公・幸村公・大助公(親と子と孫)三代の物語を後世へと語り継ぐ施設「九度山・真田ミュージアム」は、令和8年3月に開館10周年を迎えました。ぜひ九度山・真田ミュージアムで、戦国末期に生きた真田三代の軌跡を体感してください。

入場料金		
当 日 券	大人(高校生以上)500円	小人(小学生・中学生)250円

- 開館時間/午前9時~午後5時(最終入場 午後4時30分)
- 休館日/月・火曜日(祝日の場合は営業・翌平日休館)
- ※ゴールデンウィークは営業



和歌山県伊都郡九度山町九度山1452-4
☎0736-54-2727



南海高野線 九度山駅から徒歩10分(約800m)